

第37回ビジネス日本語研究会

テーマ:「ビジネス日本語」を 問い直す

趣旨説明

2024.6.1

堀井恵子

武蔵野大学名誉教授



「ビジネス日本語」の課題/もやもや BJ研究 1970年代～、留学生に対するBJ 2006年～ を振り返って

1.ネーミング・定義:

- *「ビジネス日本語」は「オフィスの日本語」だけ?
- *「仕事の日本語」の方が良いのでは?
- *「キャリア日本語」登場

2. 対象: 高度人材、特定技能、留学生(まだ仕事をしていない)、など

- * 留学生といっても大学生と日本語学校生は同じ?

3. 目的: 就労支援? キャリア支援? 業務遂行?

4. 学習/教育内容: 言語力だけではない? 複合力、インターンシップ

- * 知識+スキル+問題発見解力
コミュニケーション力・異文化調整力・他者との共同遂行能力

現場/研究ごとの
整理・定義
が必要

ビジネス日本語研究会 規約

第2条

本研究会は、「ビジネス日本語(企業での業務活動/いわゆるビジネスを始め、**さまざまな仕事の現場で必要とされる日本語力)**」の理念の構築と教育方法論の研究を行い、それに基づいて教育内容体系・教材例・教育方法例を提起することによって、日本語学習者を支援しながら、国内外の社会における日本語教育・日本語表現教育の質的向上に貢献することを目的とする。加えて、日本語教育関係者・学習者、企業、行政等のネットワークづくりを構築することを目的とする。

研究会では
限定はして
いない

社会の変化

コロナ禍は一応収まったが、

- ・「外国人」の増加→多文化共生社会/複言語・複文化
 - ・少子高齢化・労働力不足+働き方改革
- 留学生受け入れ40万人計画(2023.4) 2033年までに
(技能実習制度の廃止⇒育成就労制度決定:2024.2.9)

+AI活用、DX

- * 留学生の多様化・採用方法の変化



日本語教育界の現状

⇒2024.4「日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律」(認定法)施行

⇒日本語教育機関の認定、登録日本語教師(国家資格)実施

⇒就労者に対する日本語教師の不足

* 研修

* 日本語能力の判定 JLPTvsCEFR

今日は 留学生対象の ビジネス日本語を問い直す

留学生の多様化

1. 大学の留学生、日本語学校の留学生
 - *日本語学校からの就職志望の増加
2. 英語で学位をとる留学生の増加
3. 理系/文系の違い
4. 大手志望/中小志望の変化
5. 業界/職種のすみわけ
5. 勤務地 都市志望/地方志望の変化
- その他

多様化に対応した
BJ教育とは？

プログラム

1. パネルセッション

13:40～15:10 (話題提供:60分+パネリストディスカッション:30分)

【司会】浅海 一郎(内定ブリッジ株式会社)

【パネリスト】

・杉野幹人氏(武蔵野大学大学院言語文化研究科ビジネス日本語コース 教授)

「日本の先進企業における働き方の変化
～それを踏まえて大学院で変え始めたことを少し」

・門間由記子氏

(東北大学高度教養教育・学生支援機構高等教育開発部門 キャリア開発室講師)

・伊月知子氏(愛媛大学国際連携推進機構国際教育支援センター 准教授)

ビジネス日本語
を問いなおす

多様性
最先端

国際共修
インターンシップ

英語トラック
キャリア支援

プログラム

2. グループディスカッション+

パネリストとの全体ディスカッション 15:20-

【進行】藤本かおる(武蔵野大学)

【20分】3名グループ(3名掛けの席で1グループ)で話す

・もっと聞きたい、疑問点や困っていることを3つぐらい紙に書いてもらう

【10分休憩】→質問整理

【30分】3人のパネリストに話していただく

ビジネス日本語
を問いなおす

- 16:50～17:00 まとめ
- * アンケート集め

お願い

- 企業系の方にお話しいただく場合、いろいろなリスクがあります。
- したがって、配布資料はありません。後日、HPIに掲載いただく場合もあります。
- スクリーンショット、録音などお控えください

ビジネス
日本語を
問い直す

みなさまそれぞれの現場・研究と
つなげてなんらかの更新をしましょう

会員同士の
情報交換、
ネットワークも・・・